

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	黒川青少年野外活動センター	評価対象年度	令和6年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人 国際自然大学校 ・代表者名 理事長 佐藤 初雄 ・所在地 東京都狛江市市岩戸北4-17-11	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和6年4月1日 ～ 令和11年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 19,464人 (令和5年度:15,851人)	②年間延べ利用団体数 646団体 (令和5年度:598団体)
収支実績	1 収入 単位:円 指定管理料 34,295,000 主催事業収入 4,510,435 雑収入 4,510 補填金 0 その他収入 4,683,615 合 計 43,493,560 2 支出 人件費・賃金 22,481,998 光熱水費 1,809,439 委託費 3,131,209 消耗品費 2,465,571 修繕費 0 報償費 1,151,011 その他 4,565,529 本部繰入額 5,289,913 合 計 40,894,670 3 差引 2,598,890	
サービス向上の取組	野外活動に関する知識や技術が豊富な職員が指導にあたり、満足度の高い体験や世代間交流、地域交流の場を作っている。また、事業実施後には反省会を開き、改善点を指導マニュアルに反映させており、事業の充実を図っている。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	2	2
	(評価の理由) ・高学年の小学生からの要望に応えるために、新規の宿泊事業として「黒川冒険クラブ」を実施した。全6回の活動で同じ参加者が継続して参加するという初の試みであったが、定員を超える申し込みがあった。毎回、同じ参加者が様々な野外活動を通すことで、徐々に参加者同士がお互いの個性や考え方を把握し、合意形成を図りながら活動する状況が見受けられ、参加者たちの成長が感じられた。 ・市内小学生を対象にした新規の「夜の昆虫観察会」については、20名近くの定員に対し38名の参加があった。クワガタやカブトムシなどの昆虫を確保するために、参加者自らで夜に餌を仕掛け、夜中に起きて状況を観察するといった黒川の自然及び野外活動を活かした独自の取組であった。 ・利用者数については、利用者数は令和5年度と比べ、約3,600人程度増加したものの、目標値には達成できず、前指定管理時平均と比べても下回った。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	4	8
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
	(評価の理由) ・金銭管理・会計手続について、計画に基づき、毎月の収支状況を本部担当者及び施設担当者がチェックするなど、会計処理及び金銭管理のための規則等に従って会計処理及び金銭管理を適切に行っている。 ・物価高騰による影響が生じながらも、主催事業等参加者が負担する実費費用分については、事前に職員がまとめて必要な物品等の買い出しを行い保管しておくなど、これまでどおりの費用に概ね抑えながら主催事業の質を低下することなく実施できた。 ・ナラ枯れによる落枝の被害を未然に防ぐため、職員やボランティア自らで伐採や剪定可能な樹木を処理したことにより、樹木の伐採剪定委託経費を削減した。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・施設・事業の広報については、週1程度で日々のトピックや主催事業の情報を更新し、利用者等からの質問や要望に対して、適宜ホームページの修正・改善を行った。また、毎日のブログ更新やInstagram及びFacebookの紐づけなど、若い方向けの情報発信を積極的に実施した結果、Instagramのフォロアー数も令和5年度から増加し、1,800人を超えている。 ・利用者への対応については、「顔の見える関係づくり」を意識し、活動中の団体等への声掛けを実施しているほか、ホームページやSNSで施設情報を丁寧にわかりやすく発信しているため、問合せ等は少なくなってきた。 ・学校との連携においては、施設での野外活動体験の受入れを積極的に行い令和5年度よりも受入校数は増加した。令和6年度においては旭町小学校PTA(川崎区)からの出前講座の要望があり、当日は火起こし・火消し体験、災害時のロープワーク体験を実施した。 ・利用者ニーズについては、障がい者団体からの施設利用の要望があり、事前の調整を十分に行ったうえで、当日においても職員が丁寧に支援しながらプログラムどおりの活動を実施できた。また、初めて川崎市立ろう学校の児童を受入れ、ドラム缶でのピザ作りを行ったが、職員によるきめ細かな対応により、参加者から好評をいただいた。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) ・適正な人員配置については、仕様書等に基づき、適正な人員配置を行った。 ・職員の研修体制については、該当する施設職員が不在で対象外という研修もあったが概ね計画的に実施したほか、年度中に募集された研修においても、施設運営に関わるものであれば積極的に参加した。 ・個人情報等の取扱について、情報漏洩等のトラブルはなかった。さらに個人情報規程や個人情報ポリシーに従って厳重に管理し、法人に設置する個人情報取扱責任者のもと、個人情報取扱担当者を選任して職員への教育と訓練を実施したほか、職員を対象に個人情報保護に関する研修を実施した。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	5	5
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
(評価の理由) ・職員やボランティアスタッフによって土砂災害等を防止するためのどんぐり山の整備が完了し、施設の広範囲でしがらみ柵による土留めのための柵の整備及び植樹を行った。 ・令和6年度においても施設内での事故等は発生しなかった。利用者の安全確保については、「安全管理・緊急対応マニュアル」の職員間での定期的な読み合わせを行い、共通意識を持ちながら、すべての事業において、事業終了後に職員及びボランティア等のスタッフで振り返りを行い、次の事業に向けた課題認識や対策等を検討した。 ・防犯対策については、職員による日常点検や業務で施設を確認し、避難経路に障害物や不具合がないかを確認するとともに、不具合があった場合は速やかに修理や清掃を行った。 ・災害への対応については、安全管理・緊急時対応マニュアルにに基づき計画的に消防・避難訓練を実施した。					

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

黒川の自然や施設設備を活かしながら、野外活動による様々な体験を通じた事業や取組を推進した結果、令和6年度の利用者数は目標値を下回ったものの、令和5年度から3,600名を超えることができた。また、日頃から利用者のニーズを汲み取りながら、障がい者団体の受入れを拡充や新規の宿泊事業として「黒川冒険クラブ」を実施するなど、参加者同士の交流を深めるとともに野外活動や施設の魅力を提供された。併せて、長年の里山活動として、施設の広範囲で職員やボランティアスタッフによって整備されたどんぐり山が完了し、施設の広範囲でしがらみ柵による土留めの作成及び樹木が植えられ、里山の保全活動と併せて効率的かつ効果的な施設運営を行ったものと評価できる。さらに、日頃からSNSを活用した広報活動を継続して発信されており、Instagramのフォロアー数も増加したことにつながり、利用者数増加の要因と推測できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

令和5年度と比べ利用者数は増加したものの、目標値は未達成であったため、引き続き利用者のニーズを汲み取りながら施設及び事業の魅力ある発信を継続していく必要がある。そのためには、特に平日の施設利用者数については増加する余地があるため、市内全域の学校を中心に広報活動を展開しながら、授業の一環として施設訪問され、野外活動を体験してもらおうといった取組や昨年度、購入されたキッチンカーを活用しながら、今後は市内イベント等に出店するなど更なる活動の幅を広げて広報に努める取組を期待する。併せて、SNSの更なる活用に強化しながら新規利用者の発掘及び顧客利用者の定着化に向けて施設運営を推進していただきたい。
